

小郡都市核

～街の快適さと営みが広がる“産業交流拠点”～



1 小郡都市核づくりの取り組み方針

(1) めざす小郡都市核の姿

都市核づくりの基本方針を踏まえ、小郡都市核は、都市的利便と潤いにあふれた以下のまちの姿を目指します。

① 地域を豊かにする“^{ビジネス}経済”のまち

小郡都市核の大きな特長は、新山口駅南側を中心に、県内を管轄する事業所等が数多く集積していることです。こうした機能の集積は、小郡都市核における交流を促進し、求心力・拠点性を高めるとともに、本市を含む広域的な経済基盤の強化や多様な経済活動を創出し、暮らしやすい地域社会の形成と地域の経済力を高めることとなります。

小郡都市核は、広域的かつ多様な産業活動を促す拠点として事業所等の集積を促進し、多様な経済活動を通じて地域を豊かにすることのできる“^{ビジネス}経済”のまちを目指します。

② 新たな交流が生まれ、始まる“融合”のまち

小郡都市核は、県内外の多くの人々が行き交いするものの、交流空間としての多様なにぎわいには結びついていない状況にあります。

しかしながら、駅周辺は、元来、人々が集うまちの中心であるとともに、旅行者等の利便やサービス等のニーズを満たす場所であり、こうした空間の形成が旅行者や来訪者と地域との交流を促進し、にぎわいの創出や地域の活性化に結びつくこととなります。

小郡都市核は、内外が交わる結節点としての優位な特性を生かし、多様な人々が集い、新たな交流が生まれ、始まる“融合”のまちを目指します。

③ 山口県の陸の玄関にふさわしい“シンボリック”なまち

小郡都市核は、多様な人々が往来する山口県の陸の玄関であり、県全体のイメージやホスピタリティを印象付けることのできる良好な表情や機能の発揮が求められます。

しかしながら、駅北側を中心とする一帯は、景観的魅力に欠けるほか交通結節、都市的サービス機能等が不足しているなど、山口県の陸の玄関としての表情や機能を十分に発揮しておらず、このことが、にぎわいの創出にも大きく影響しているものと考えられます。

小郡都市核は、多様な交流を促進することのできる山口県の陸の玄関にふさわしい“シンボリック”なまちを目指します。

④ 誰もが住みたくなるような“快適”なまち

都市核の活力の大きな要素の一つは、都市核内の定住人口です。小郡都市核は、公共交通の結節点として移動利便性の高い場所であり、今後の市街化により都市機能の集積が進むなど、生活利便性も高まるものと考えられます。

小郡都市核は、都市的利便性の高い、誰もが住みたくなるような“快適”なまちを目指します。

なお、「②新たな交流が生まれ、始まる“融合”のまち」と「③山口県の陸の玄関にふさわしい“シンボリック”なまち」については、“ターミナルパーク（自然と都市が調和する個性的かつ機能的な快適交流空間）”として括り、山口県の顔としての役割や駅を中心とする交流の基点・サロンとしての機能を十分に発揮することのできる空間の形成に向けた基本コンセプトとし、戦略的かつ一体的な空間形成を図ります。



(2) 小郡都市核づくりの取り組み方向

めざす小郡都市核の姿の実現に向け、以下のとおり一体的な取り組みを進めます。

① 交通結節・アクセス機能の向上を図る

小郡都市核の求心力を支える最も大きな要素は、広域高速交通の利便性です。小郡都市核が、産業交流拠点として求心力や拠点性を高め、広域的な経済基盤の強化や多様な経済活動を創出するためには、この利便性をさらに高めることが必要不可欠であり、県内外からの交通結節・アクセス機能の向上を図ります。

② 駅南北の一体性を強化する

小郡都市核は、新山口駅を中心に南北が分断されている状況にある中で、主として北側が多様な人々の交流拠点、南側が事業所等の交流拠点という異なった特性を有していますが、例えば、事業所等の交流には商業や飲食などの北側の機能が必要となるなど双方の連携も必要であり、行き来しやすい環境が求められます。

こうしたことから小郡都市核は、核全体としての求心力を高めるため、駅南北のそれぞれの特性を高めるとともに一体性の強化を図ります。

③ 集積を誘引する都市機能の整備を図る

集積がさらなる集積を促進することを踏まえ、市街地再開発事業や土地区画整理事業等を含めた土地の有効利用や利便性の向上等、集積を生む優れた立地条件の整備に努めるとともに、集積を促す動機付けとなるような拠点施設の整備、人々が集い・憩い・楽しむためのスペースを意識した駅前空間の形成など、さらなる集積を誘引する都市機能の整備を図ります。

④ 環境と共生する快適かつ個性的な空間を形成する

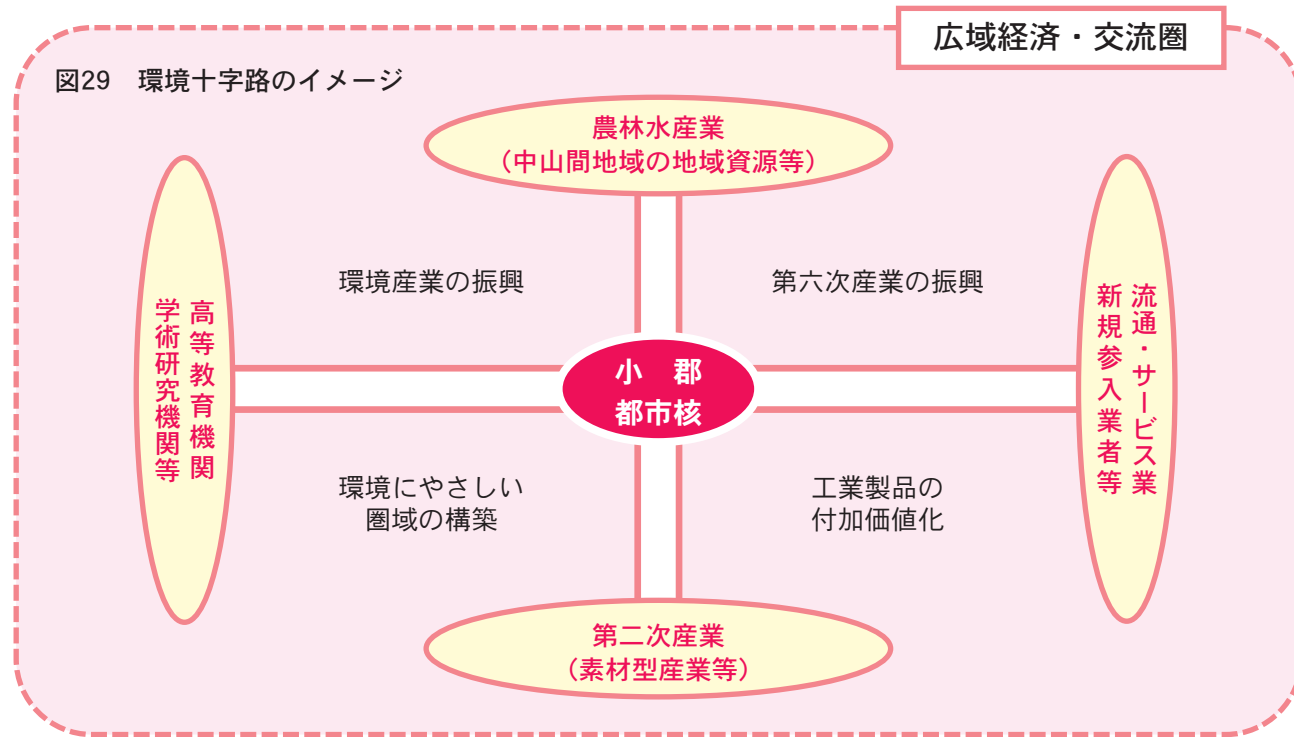
事業所等の集積や多様な人々による交流をさらに高めるためには、必要な都市機能等が充足するとともに、まちとしての付加価値やアイデンティティを発揮することが重要です。

こうした中、近年、地球規模での環境意識が高まっており、多様な主体による環境負荷の低減などへの取り組みが求められています。

山口県中部を圏域とする広域経済・交流圏は、宇部方式と呼ばれ世界的に名高い環境共生都市である宇部市があるほか、中山間地域等に代表される豊かな自然環境や地域資源、山陽側を中心に新たな付加価値化が求められる第二次産業群、山口大学をはじめとする高等教育機関や学術研究機関、高い技術力を持った環境関連企業等の集積が見られるなど、環境への関わりが深い地域であり、小郡都市核がこれらの結節機能を果たすことにより、さらなる環境保全意識の向上や環境産業の振興等が期待できます。

また、小郡都市核づくりにおいては、公共交通の拠点となる新山口駅ターミナルパーク整備による公共交通機関の利用促進が環境負荷への低減に寄与する一方、新山口駅北側を中心とする新たな市街地形成に伴う環境負荷の発生も想定をされることです。

こうしたことから小郡都市核は、圏域の特性を生かし、企業やまちのイメージ向上につながる“環境”を新たなアイデンティティとして位置づけ、これを体現した快適かつ個性的な空間を形成し、環境十字路の結節点としての役割を果たす機能を発揮することのできる産業交流拠点として多種多様な事業所等の集積や多くの人々の交流を促進します。



(3) 成果指標と目標数値

にぎわいの創出については、創出効果がどの程度得られたかを判断する指標とともに、目標数値の設定による評価が必要であり、現在の状況及び小郡都市核づくりの進捗状況について市民に分かりやすく伝えていきます。

★ 表4 交流人口

	平成8年	平成18年	平成24年	平成29年	
新山口駅周辺 宿泊客数	—	175	190	210	単位：千人／年 出典：市観光課
新山口駅 乗車人員	8,061	7,210	7,500	8,500	単位：人／日平均 出典：市統計年報（県統計年鑑）

★ 表5 定住人口

	平成7年	平成17年	平成22年	平成27年	
小郡都市核 内人口	3,860	4,559	5,000	5,500	出典：国勢調査
小郡都市核 内世帯数	1,553	2,152	2,300	2,500	

★ 表6 経済活力

	平成8年	平成18年	平成23年	平成28年	
小郡都市核内 事業所数	902	938	960	1,000	出典：事業所・企業統計調査
小郡都市核内 従業者数	7,823	10,414	12,000	14,000	単位：人 出典：事業所・企業統計調査

2 小郡都市核ゾーン別計画

(1) ゾーン別計画

小郡都市核は、JR新山口駅を中心に南北に異なる機能や表情を有しています。

こうした状況を踏まえ、ゾーンごとの個性化と機能強化を図り、にぎわいを創出し、拠点性の向上を図っていきます。

このため、各ゾーンに特性を踏まえたゾーンコンセプトを設定するとともに、各ゾーンに関わりの深い民間団体をにぎわい創出の推進力として位置づけ、多様な主体によるまちづくりを積極的に進めていくこととします。

また、新山口駅再生ゾーンと市街地形成ゾーンを環境共生モデル地域とし、重点的な取り組みを進めます。

新山口駅再生

市街地形成

業務集積

新山口駅再生ゾーン

ゾーンコンセプト

～～ 交わりの空間 ～～

JR新山口駅を中心とする交通結節点の中心として、多様な人々に高い都市的利便、移動利便、案内機能を提供するとともに、山口県のゲートウェイにふさわしい快適さとシンボリックな表情を持つ“交わりの空間”づくりを進めます。

にぎわい創出の推進力

山口商工会議所、小郡大正通り商店連合会、小郡商工振興会、南部交流のまちづくりを支援する会、小郡駅北地区市街地再開発事業準備組合、鉄道・バス・タクシー等の交通事業者ほか

① 交通結節・アクセス機能の強化

新山口駅再生ゾーンは、小郡都市核の中心に位置する交通結節点であり、県内外の多様な人々の移動を支える広域的なターミナル・トランジットとしての役割を發揮しています。

しかしながら、鉄道とバス・乗用車間の乗り換えや北側駅前広場の歩行者・車両動線があまり機能的ではなく、駅舎も古く南北に長いことから鉄道相互の乗り換えも不自由な状況にあります。

また、駐輪場が不足するほか、駅北側は駐車場も少ない状況にあります。

こうしたことから、交通結節・アクセス機能の強化を通じ、快適なターミナル・トランジット空間の形成を図ります。

関連事業

- 北側駅前広場の再編整備（広場、歩行者・車両動線の改良等）
- 南側駅前広場の利便性の向上
- バスターミナル、タクシーベイの再編整備
- 駐車場、駐輪場の再編整備
- 県道山口宇部線のアクセス道路の整備
- シンボリックな駅舎の整備
- 鉄道・バス間の利用しやすい接続ダイヤの構築と乗り継ぎ情報の提供
- パーク＆ライドの導入と関連整備（専用駐車場の設置等）
- 新山口駅への新幹線の停車本数の増加の促進
- JR山口線の増便、電化とJR宇部線との直結化の促進



② 駅南北の一体性の促進とたまり空間の創出

小郡都市核はJR新山口駅を中心として南北が分断されている状況にあります。

こうした中、南北を結ぶ歩行者・自転車用道路が整備されていますが、駅東側に位置することから視認性が低く、また、移動距離も長く屋根もないことから必ずしも利用しやすいとはいえない状況となっています。

また、駅周辺にたまり空間がないことから空間的魅力に欠け、周辺の都市機能の不足等ともあまって、多くの駅利用者があるものの、駅前としてのにぎわいには至っていない状況にあります。

新山口駅周辺がにぎわいにあふれるためには、駅南北の回遊性を高めるとともに人々が憩うことのできる場が必要であることから、駅南北の一体性の促進とたまり空間の創出を図ります。

関連事業

- 駅構内を縦断する自由通路の整備
- 風の並木通りと県道新山口停車場長谷線の縦軸を生かした歩行者動線の整備
- 北側駅前広場の再編整備（広場の拡充、公園やイベントスペース等の整備）
- 小売業、サービス業、公共・公益機能の導入
- 鉄道記念館等、鉄道をモチーフにした見学・体験施設の整備
- 山口情報芸術センターのアネックス機能の導入



③ 山口県・山口市のゲートウェイとしての機能強化

小郡都市核は、市はもとより県の陸の玄関としての機能を有しており、なかでもJR新山口駅周辺はその中心となる区域です。

こうしたことから、訪れる人々への旅行利便等の向上や快適かつ個性的な景観形成を図り都市核としての求心力を高めるとともに、山口都市核をはじめとする市内・県内への案内・誘導機能の強化を図り遠心力を高めるなど、市・県のゲートウェイにふさわしいにぎわいあふれる多様な交流空間を形成します。

関連事業

- シンボリックな駅舎の整備 再掲
- 小売業、サービス業、公共・公益機能の導入 再掲
- 観光案内所機能の強化
- 市・県内の主要観光地や施設等の情報受発信機能の強化

④ 環境と共生する空間の形成

新山口駅再生ゾーンは、小郡都市核の中心として多様な人々が交流する空間であり、市や県の顔として広告塔としての役割を発揮するにふさわしい場所です。

こうしたことから、環境と共生する小郡都市核のアイデンティティを内外にアピールするとともに環境に配慮する先導的なまちづくりを進めます。

関連事業

- 環境に配慮した施設の整備
- 環境共生システムの構築（ガイドラインの策定や協定の締結を通じたゾーン内事業者によるシステムの構築）
- パーク＆ライドの導入と関連整備（専用駐車場の設置等） 再掲
- 環境時計の設置

新山口駅再生

市街地形成

業務集積

市街地形成ゾーン

ゾーンコンセプト

～～ 集いの空間 ～～

業務集積ゾーンにおける事業所等の集積を促すとともに、広域的な経済活動を支える都市機能や旅行、ビジネス等、多様な人々の交流を促進する都市機能等の集積を図り、山口県の陸の玄関にふさわしい拠点性の高い“集いの空間”づくりを進めます。

なお、駅直近の西側に位置する一帯を重点エリアとし、官民が一体となって重点的な空間整備を進めます。

にぎわい創出の推進力

山口商工会議所、小郡大正通り商店連合会、小郡商工振興会、南部交流のまちづくりを支援する会、小郡駅北地区市街地再開発事業準備組合ほか



① 交流を促進する都市機能の整備や強化

JR新山口駅の北側に位置する市街地形成ゾーンは、駅前として非常に恵まれた立地条件にあるものの、大規模な低未利用地を有するなど、まちとしての器が形成されていないこともあり、人々が集いにぎわう交流空間としての機能を発揮していません。

小郡都市核が産業交流拠点としての求心力を高めるためには、山口県の玄関にふさわしい都市機能等が集積する市街地形成を図る必要があります。そのためには大規模な低未利用地等の利活用等を通じた強い来街動機となり得る施設の整備が不可欠と考えられます。

また、新たな市街地形成を図るとともに、にぎわいにあふれた状態を維持するためには地域の協力や参画が不可欠であり、ハード・ソフト両面からのまちづくりが求められます。

こうしたことから、官民が一体となって広域的に求心力の高い都市機能の整備を進めるとともに、地域のまちづくりへの主体的な取り組みを促進します。

関連事業

- 西側大規模遊休地を中心とする一帯における公共公益・大規模集客施設等、広域を対象に来街動機となるとともに新たな市街地形成を促す都市機能の整備（官民合同の検討組織の設置等による調査研究及び事業化）
- 県道山口宇部線アクセス道路沿線等への個性的なストリートモール機能の導入
- 下町風情の創出等、回遊を誘引する統一したコンセプトに基づく東側既存市街地の住商混在の交流空間の形成
- 人をひきつけるイベント等の開催
- 既存商店街の空き店舗への出店促進
- 市民主体のまちづくりを進めるためのまちづくり意識の醸成と人材の発掘・育成



② 快適な都市空間の創出

成熟型社会においては、多様な人々が過ごす市街地においてもゆとりや安らぎを感じることでできる空間づくりが求められており、こうした機能や街なみ等がその地域の個性や魅力ともなっています。

こうしたことから、訪れる人々が快適に過ごすことのできる潤いにあふれるバランスのとれた都市空間の形成を進めていきます。

関連事業

- 公園・緑地や親水空間の整備
- 県道新山口停車場長谷線の美装化、緑化
- 市道中領小郡駅線の美装化、緑化

③ 街なか居住の促進

JR新山口駅北側に位置する本地域は、交通利便性が高く、また、今後の新たな市街地形成の進展により、生活利便性もさらに高まることが予想されるなど、都市型の居住空間としてふさわしい条件を備えています。

小郡都市核ににぎわいを取り戻すとともに、来訪者へのおもてなしや人と人とのふれあいを大切にする観点からも、街なか居住を促進します。

関連事業

- 民間集合住宅の建設促進
- 空き家、空き地情報のストック、発信（空き家バンク制度）
- 公営住宅の整備

④ 環境と共生する空間の形成

市街地形成ゾーンは、多様な人々が交流する空間であり、新山口駅再生ゾーン同様、市や県の顔として広告塔としての役割を發揮するにふさわしい場所であるとともに、西側を中心に新たな市街地形成を進めることに伴う環境負荷への低減が求められます。

こうしたことから、環境と共生する小郡都市核のアイデンティティを内外にアピールするとともに環境に配慮する先導的なまちづくりを進めます。

関連事業

- 環境に配慮した施設の整備
- 環境共生システムの構築（ガイドラインの策定や協定の締結を通じたゾーン内事業者によるシステムの構築）



新山口駅再生

市街地形成

業務集積

業務集積ゾーン

ゾーンコンセプト

～～ 営みの空間 ～～

山口県のほぼ中央に位置する交通結節点としての特性や既存都市ストック等を生かし、広域を管轄する業務、業務支援機能等の集積を図り、広域経済を支えるとともに、活発なビジネス交流が展開される“営みの空間”づくりを進めます。

なお、南側の公共的利用を進めるエリアと西側の業務機能等を誘導するエリアについては、計画的・効率的な土地利用を進めるため、都市計画による面整備等を通じた市街化を促進します。

にぎわい創出の推進力

山口商工会議所、小郡商工振興会、南部交流のまちづくりを支援する会ほか



① 事業所等の集積促進

JR新山口駅南側に位置する業務集積ゾーンは、新幹線の開通に伴う土地区画整理事業により安全で快適な市街地が整備され、県内を管轄する支店や営業所、ショールームやビジネスホテル等の集積が進んでいます。

また、国道2号の南側には山口県総合交通センターのほか山口南警察署が新たに建設されるなど公共施設の整備も見受けられます。

一方で、ゾーン内には保留地が見られるなど、一部、低未利用地もあり、さらなる都市機能の集積が求められるほか、駅とゾーン中央を結ぶ歩行者動線となるシンボルロード“風の並木通り”を生かした個性あるまちづくりが求められます。

こうしたことから、産業交流拠点としての機能強化を図るため、引き続き業務・業務支援機能等の誘導を積極的に進めるとともに、“風の並木通り”を生かしたにぎわい空間の形成を進めます。

関連事業

- 業務・業務支援機能等の誘導
- 保留地処分の促進
- 公共施設等の整備促進
- 風の並木通りを軸線とする都市機能の集積とシンボル性の向上

② 街なか居住の促進

JR新山口駅南側に位置する本地域は、広域的な交通利便性が高いことから市外はもとより県外への通勤アクセスにも恵まれており、都市型の居住空間として多くの集合住宅が整備されています。

小郡都市核ににぎわいを取り戻すとともに、来訪者へのおもてなしや人と人とのふれあいを大切にする観点からも、街なか居住を促進します。

関連事業

- 民間集合住宅の建設促進

新たな都市拠点ゾーン

ゾーンコンセプト

～～ 新たな産業交流・創造空間 ～～

小郡都市核の発展の状況や広域経済・交流圏における経済や産業の状況等を踏まえ、国道2号に近接するという立地特性を生かした物流産業や環境等の新産業・新事業等の都市機能が集積する広域的な経済産業活動拠点となる“新たな産業交流・創造空間”づくりを進めます。

(2) ゾーン間の連携

小郡都市核エリアの一体的な機能強化を図るためには、各ゾーンの有機的な連携の仕組みを構築することが重要となります。このため、特に山口県の陸の玄関として必要不可欠な機能に関する連携やゾーン間の回遊性の強化に努めます。

① サービス面での連携

JR新山口駅を中心とする新山口駅再生ゾーンは山口県の陸の玄関として広域的な交流が営まれており、交通結節点として旅行者等に対する必要なサービスの提供が求められます。同様に、多くの事業所等が集まる業務集積ゾーンにおいてもそこで働く人々や出張者等への必要なサービスの提供が求められます。

一方、市街地形成ゾーンは、多様な人々が交流する集いの空間であることから、物販や飲食といったサービス機能の充実・強化が期待でき、両ゾーンに不足する機能を補うことができます。

このように、近接する3つのゾーン間の連携や機能補完等を通じて、都市核全体としての利便性や求心力を高めていくことが重要です。

② 産業振興面での連携

新山口駅再生ゾーン周辺の公共空間や集客施設等は、広域的な広告宣伝効果や交通利便性等から多様な利活用が期待でき、駅前空間としてのにぎわいの創出や地域経済に大きく寄与するものと考えられます。

特に、業務集積ゾーンや市街地形成ゾーン内の事業所や団体関連の恒常的なイベント等の開催は、関連産業等への波及効果など裾野の広がりも期待できます。

こうしたゾーン間の連携を深め、個々の機能強化を図り、産業振興へとつなげていくことが求められます。

③ 回遊性の強化

ゾーン間の回遊性を高めるためには、相互の接続の良さや誘導が必要です。

このため、道路網や公共交通の整備に努めるとともに、わかりやすく歩いて楽しい歩行者動線の確保に努める必要があります。

特に、JR新山口駅を中心に3つのゾーンを結ぶ中心軸としての歩行者動線の整備に努め、沿道への都市機能の集積等、連担性を高めていく必要があります。

推進方策

このプランは、山口都市核と小郡都市核の機能強化と求心力・拠点性の向上を通じたにぎわいを創出するための基本方策を示すものです。

策定にあたっては、商工会議所をはじめ、関係する民間のまちづくり団体等のご意見やご提案を参考とさせていただいております。

申すまでもなく、これからのまちづくりは、創意工夫や新たな発想を取り入れていくとともに、地域と行政がともに主体となって取り組んでいくことが重要です。

このため、本プランの推進にあたっては、官民一体による効果的かつ総合的な取り組みを進めていくこととします。

① 官民協働

プランの推進にあたっては、民間と行政がともに“にぎわい創出の推進力”となるとともに、互いに果たす役割を明確にし、恒常的な意見交換等を行うなど、相互理解、相互協力に基づく協働関係を形成します。

- 官民の役割分担の明確化
- 意見交換等による相互理解、相互協力の関係づくり
- 国、県、関係機関等との連絡体制の構築

② 推進体制の強化

真に効果的かつ着実にまちづくりを進めていくためには、しっかりとした推進体制が必要となります。特に、民間が主体で行う事業や施設等の運営については長期的な展望に立った計画や体制の整備が求められます。そのため、官民協働による地域や民間のまちづくり団体のマネジメント体制の充実・強化に努めます。

- 庁内の横断的な推進体制の充実
- 地域や民間のまちづくり団体の組織化、再編
- 事業主体の持続可能な活動基盤の確立
- 相談窓口の設置

③ 段階的实施

プロジェクトに係る個別事業の具現化においては、計画期間内において年次的に実施するとともに、実施にあたっては、ソフトとハードが融合した効果的かつ総合的な事業展開を図ります。

- 計画期間における事業の年次的実施
- ソフトとハードとが融合した効果的かつ総合的な事業展開

用語説明

(五十音順)

アイデンティティ

環境や時間の変化にかかわらず、連続する同一のものであること。主体性、役割、存在意義・価値ともいう。

歩いて暮らせる街づくり

地域のさまざまな工夫や発想を源泉に、生活の諸機能がコンパクトに集合し身近に就業場所のあるバリアフリーの街において幅広い世代が交流し、助け合うことなどを通じ、身近な場所での充実した生活を可能とするとともに、これからの本格的な少子・高齢社会に対応した安心、安全でゆとりのある生活を実現しようとする取り組み。経済新生対策（平成11年11月11日経済対策閣僚会議決定）に位置づけられ、全国20箇所のモデル地区が選定された。

域内市場産業

商業やサービス業など、主に地域内を市場とする産業。対して、製造業、農業、観光業など、主に地域外を市場とする産業を域外市場産業という。

業務機能

企業等の事業所や産業、経済活動に関連する施設等。ここでは、企業の本社・本店・支社・支店、金融機関等を指す。

業務支援機能

情報通信業や物品賃貸業、広告業などの対事業所サービスをはじめとする事業所の業務活動を支援する機能。

経済のソフト化・グローバル化

ソフト化

経済の構造が第二次産業を中心とするハード・モノ重視から、第三次産業を中心とするソフト・サービス重視へと移行しているさま。

グローバル化

情報通信技術の発展や交通手段の発達等に伴い、国境を越えて世界的な規模で経済活動が営まれているさま。

県内（国内、市内）総生産

県内（国内、市内）における1年間の生産活動によって生じた新たな付加価値の総額。県内（国内、市内）で生産された財貨・サービスの売上高を貨幣評価したもの（産出額）から、物的経費（原材料や燃料などの中間投入）を控除して算定する。

広域経済・交流圏

県中部の圏域で、広島、福岡・北九州地方中枢都市圏の中間に位置するという特性を踏まえ、市町間の交流・連携を通じた地域資源の有効活用や経済循環の活性化等、市域を越えた取り組みや経済的な一体性の形成が望まれる地域。

広域県央中核都市

人口30万人以上を有する高い都市経営能力を持つ都市で、広域経済・交流圏における経済活動を支え広域的に質の高い都市的サービスを提供するとともに、世界に通用するまちとしての価値を創造・発揮する都市。

高次都市機能

行政、教育、文化、情報、商業、交通、レジャーなど住民生活や企業の経済活動に対して、各種のサービスを提供する都市自体が持つ高いレベルの機能で、都市圏を越え、広域的に影響のある機能。

交流人口

通勤・通学、買い物、観光、レジャーなど本市を訪れる（交流する）人のこと。

コンバージョン・リノベーション

オフィスを住宅にするなど建物の用途を転換し、または用途を変更せず、機能や価値を高めたりすること。

コンパクトシティ

郊外への都市的土地利用の拡大の抑制、中心市街地の活性化等を図るため、暮らしに必要な諸機能が近接し、効率的で持続可能な都市。

コンベンション

見本市や学術会議、国際会議など、大勢の人が集まる集会。

市街地再開発事業

都市再開発法に基づき、市街地の土地の合理的で健全な高度利用と都市機能の更新を図る事業。老朽化した建物が密集し道路が狭いなど生活環境が悪化している地区や有効な土地利用が図られていない地区等において既存の建物を除去し、土地の共同化と高度利用を図り、不燃化した共同建築物に建て替えるとともに道路・公園・広場等の公共施設の整備とオープン・スペースの確保によって、安全で快適な都市環境を創出するもの。

集積の経済

特定の地域に業種の異なる、あるいは特定の業種が集積することによって発生する業務効率等の経済的利益の向上が磁場となって、新たな産業や人口が集積するという経済の仕組みのこと。

集約型都市構造

都市圏内の一定の地域を、都市機能の集積を促進する拠点（集約拠点）として位置付け、それらを公共交通ネットワークで有機的に連携させる都市構造。都市圏内の多くの人にとっての暮らしやすさと当該都市圏全体の持続的な発展を確保することが可能となる。

人口のドーナツ化

中心市街地の人口が減少し、郊外の人口が増加する人口移動現象。

新山口駅ターミナルパーク整備

小郡都市核づくりの先導的基盤整備として、新山口駅を中心とした交通結節・アクセス機能の強化、山口県の陸の玄関としての快適な都市空間の形成、新山口駅南北の一体性の促進を図ることを目的とする事業（表口駅前広場、自由通路、アクセス道路）。平成26年度の完了を目指している。

ターミナル・トランジット機能

公共交通機関等の終発着・乗り換え機能。

地域高規格道路

地域の構造を強化し、広域的な地域・都市構造の形成や地域間相互の交流促進、広域交通機関との効率的なネットワークの形成を図ることを目的とし、自動車専用道路またはこれと同程度の高いサービスを提供できる道路。

昼間人口比

夜間人口に対する昼間人口の割合。常住人口に他の地域から通勤・通学してくる人口を足し、さらに他の地域へ通勤・通学する人口を引いて算出する。

中心市街地活性化基本計画

中心市街地の活性化に関する法律に基づき、市町村が定める中心市街地の活性化に関する施策を総合的かつ一体的に推進するための基本的な計画。本市は中心商店街ゾーンの約75haについて計画を定め平成19年5月に認定を受けている。

中枢管理機能

行政機能、本社機能、金融機能など直接的な生産活動を行わず、支配力や影響力を他の地域に及ぼす機能。

デジタルアーカイブ

かけがえのない文化資産等について、記録精度が高く映像再現性に優れたデジタル映像の形で保存・蓄積、次世代に継承していくこと。

都市核

行政、業務、商業、文化などの高次都市機能が集積し、人々の生活文化や事業所の経済活動等に対して広域的に質の高い都市的サービスを提供する拠点。広域県央中核都市の核となるエリア。

土地区画整理事業

土地区画整理法に基づき、土地の区画形質の変更や公共施設の整備に関する事業。快適な都市環境をつくるため、面的整備されていない市街地について、宅地を長方形や正方形に整えたり、土地の所有者から土地の一部を提供していただき、新たに公園や道路を整備するもの。

農業振興地域

農業振興地域の整備に関する法律に基づき、今後相当長期にわたり総合的に農業振興を図るべき地域として都道府県知事が指定する区域。

パーク&サイクル（バス）ライド

自宅から車を使い、目的地周辺に近接した駐車場に駐車し、自転車（バス）に乗り換えて目的地に移動すること。

ホスピタリティ

心のこもったもてなし、もてなしの心。

保留地

土地区画整理事業によって生み出され、事業資金に充てることとなる売却用の土地。

ユニバーサルデザイン

年齢や障害の有無などにかかわらず、全ての人が使いやすいようにするデザイン。

用途地域

都市計画法の地域地区の一つで、都市の機能性、経済性、生活の安全性と利便性及び快適性を高めるため、住居、商業、工業など大枠としての土地利用を定めるもの。

ランドスケープデザイン

自然環境の保全・創造を図り都市や地域の空間を優れた風景としてデザインすること。